

授業概要

本講義では、社会科の特質を理解するため、その成立から変質の道のり、その間の社会科教育に関する代表的な教育論を中心に時系列的に講義するものである。特に勝田守一と梅根悟に代表される社会科教育の系統学習、問題解決学習の論争は、今日的にも、社会科の指導上の重要課題の一つとして捉えておくべきものである。

一方、社会科教育は、教室で学ぶ教材からだけでは、「社会認識」の力を身に付けることは難しいことを知り、実物教育の一例として博物館の利用について学んでいく。これを行なうためには、社会科と特別活動ないしは総合的学習の時間との相互乗り入れが有効なことも理解する。

授業計画

第1回	授業をはじめるとあたって（本授業の履修上の注意や教職における位置など）
第2回	社会科とは
第3回	戦後教育と社会科の成立
第4回	初期社会科について
第5回	勝田守一と梅根悟の社会科教育論①—勝田守一からの問題提起—
第6回	勝田守一と梅根悟の社会科教育論②—梅根悟からの批判—
第7回	初等社会科と中等社会科
第8回	上田薫の問題解決学習
第9回	学習指導要領の変遷 低学年社会から生活へ
第10回	学習指導要領における博物館の利用について
第11回	全国の博物館と学校教育
第12回	博物館を利用する①—人権意識を高める博物館—
第13回	博物館を利用する②—地域の文化を考える博物館—
第14回	博物館利用を組み込んだ授業案の作り方
第15回	全体のまとめ
第16回	

到達目標

社会認識力を養う社会科とはいかなる教科であるのか、その成立過程と代表的社会科教育論を理解する。社会科における実物教育の方法として、博物館利用の方法について学び、このことを通して、「社会認識」を深める教育の意義について理解する。

履修上の注意

社会科は、教室で学ぶだけでなく、課外の学習も重要な科目です。このため、土曜日に、調査・見学等を、学期中に一二度行いますので、学生の参加を求めます。

予習復習

教科書は特に定めないので、予習は求めません。ただし、現代社会に関するニュース等をよく理解していること。

評価方法

学期末の試験が六割、学期中に課す課題や授業での活動が四割で採点します。

テキスト

プリントを配布します。